

PCSA アクションレポート(依存問題対策プロジェクトチーム)

平成 30 年 3 月版

第 13 回依存問題対策プロジェクトチーム

開催日時 平成 30 年 3 月 24 日（土） 午前 9 時 30～正午 12 時

開催場所 PCSA 会議室

出席人数 メンバー6 名、正会員オブザーバー3 名、合計 9 名

出席者 <リーダー>

辻 良樹 株式会社ダイナムジャパンホールディングス 法務グループ グループ長

<サブリーダー>

荒田 政雄 夢コーポレーション株式会社 監査役

<メンバー>

望月 孝浩 株式会社ダイナム 法務・リスク管理部 リスク管理担当

倉沢 隆志 株式会社ニラク 法務部 法務担当

住谷 一真 夢コーポレーション株式会社 運営推進部 部長

武内 好努 アメニティーズグループ（株式会社パンドラ） 組織戦略部 課長

<正会員オブザーバー>

玄 昌起 株式会社ダイナム 営業統括部 業務担当 部長

佐久間 仁 株式会社ニラク 法務部 グループマネージャー

武田 裕明 株式会社ニラク 法務部

1) RCPG セミナーについて

タイトル：「Responsible Gaming 研究会」発足記念 2018・第 1 回 RCPG セミナー

全ての関係者に絶対知ってほしいギャンブル依存問題の全体像」

日時：2018 年 2 月 28 日 午後 2 時～5 時 30 分

場所：TKP ガーデンシティ プレミアム 神保町

プログラム：主催者挨拶

基調講演 第一の鍵 「Problem Gambling の理解から始める」

基調講演 第二の鍵 「依存症の法律がやってくる

～ギャンブル依存対策基本法成立後に起きること～」

基調講演 第三の鍵 「何だ！ Responsible Gaming って？」

パネルディスカッション 「ギャンブル依存問題をどう受け止めるべきか？ 何をすべきか？」

まず、ギャンブル依存症という病気はないという結論から示された。世界的な常識では、これらの依存に関する問題は、Problem Gambling に統一されているという説明がされた。これは政治用語で医学用語ではないと言及された。また、依存症になった人への対策の世界と日本との違いが説明された。問題が起こった後の対処方法よりも、事前に発生しない、問題化させないようにしていくのが世界的に主流な考え方だと説明された

一方、Responsible Gaming とは、のめり込ませるリスク、法的なリスクなどを提示するだけでなく、遊び方を示

してプレイヤーを育成していくという考え方が述べられた。一方、パチンコ業界では、リスクを伝えることを客の減少、離反を招くのではという懸念されているが、そうではないと述べられた。また、Responsible Gaming を企業が継続的に取り組む事で、事業を発展していくための仕組みが組み込まれると説明された。

2) 依存問題対応ガイドラインについて

依存問題対応ガイドラインの内容について、18歳未満立ち入り禁止対応と、家族申告プログラムに関して、変更内容があるかどうかを確認した。最新の正式な依存問題対応ガイドラインでは、差異が認められなかったが、今後も継続して注視していきたいと述べられた。

3) 記事「カジノ法案自公綱引き」について

自民党、公明党によるカジノ法案について、経済振興と依存症対策での双方の着地点を探るという記事が2018年3月16日（金）の日本経済新聞に掲載された。メンバーからは、入場料や頻度の違い、特にマイナンバーが適用されるかどうかなどが注目された。

4) 安心パチンコパチスロアドバイザー資料

21世紀会発行の安心パチンコパチスロアドバイザー教育用に使用している資料を確認した。内容として具体的な会話例などが含まれている。

5) 6月拡大部会 in 沖縄（リハビリサポート・ネットワーク勉強会）

6月29日（金）～30日（土）にかけて、法律問題研究部会と依存問題対策プロジェクトチームの共同でリハビリサポート・ネットワークの相談窓口の現場視察とRSN勉強会を沖縄にて開催する。これまでに決められたスケジュール案や現地の情報等を確認し、法律問題研究部会への提案を形作った。

6) 次回開催

平成30年4月21日（土）
午前9時30分～正午12時
PCSA 会議室

以上